外来種から勝山を守ろう

外来種のオオキンケイギク

秋になれば無数の赤とんぼが舞う、そんな日本の原風景が今も残る勝山市。

ところが近年、写真の植物を市内の至るところで見かけます。実はこの植物は〝外来種〟で、繁殖力がとても強く、在来種（もともとその地域にいる生物）が追いやられ、生態系のバランスをくずしてしまうことがあります。

美しい自然は、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの魅力の1つです。勝山市の素晴らしい風景を次世代に残していくためにも、外来種の拡がりを防ぎましょう。

外来種とは…

もともとその地域にいなかったが、**人間によって運び込まれた**生物のことで、外来生物とも言われる。

園芸用・食料用・ペットとして、または荷物や靴底などに付着物として、国外や他の地域から持ち込まれている。

市内の主な外来植物

オオキンケイギク

特定外来生物*

花▶中央が黄色
葉▶バリエーション有り
茎▶高さ30～70㎝
開花期▶5～7月

オオハンゴンソウ

花▶中央が黄緑色
葉▶羽状に裂けており、ギザギザの形
茎▶高さ1～3m
開花期▶7～10月

セイタカアワダチソウ

花▶黄色の細かい花が円錐状の集団を形成
葉▶浅いギザギザの切れ込みがあり短い毛が生えてザラザラする
茎▶高さ0.5～3m
開花期▶10～11月

オオブタクサ

花▶枝の頂部に穂状の雄花(5～10㎝)、その付け根に雌花をもつ
葉▶ギザギザの切れ込みがあり細かい毛が生えてザラザラする
茎▶高さ1～4m
開花期▶7～10月

＊研究目的以外の飼育・栽培・保管・運搬などが法律で禁止されています

在来種のすすきとホワイトザウルス

日本の原風景が残る「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
DINOSAUR VALLEY FUKUI KATSUYAMA GEOPARK

外来種による問題を防ぐためには、不注意で持ち込んだり、野外に捨てたりしないようにすることはもちろんですが、すでにある外来種の拡大を防いだり、駆除したりすることが大切です。

地域が取り組む外来種駆除活動

外来種は、市内に数多く点在しており、昔ながらの風景を浸食しつつあります。この現状を個々の力で解決することは難しいため、市民全体で取り組むことが重要です。

平泉寺町池ケ原では、平泉寺区民が中心となり、オオハンゴンソウの駆除作業が行われています。繁茂するオオハンゴンソウが、近くの川を通じて下流に拡大するのを防ぐためです。

しかし、限られた人数では繁殖域の拡大を少しでも防ぐのが限界です。

池ケ原での駆除作業の様子（平成30年6月）

外来種駆除活動にご協力ください

勝山市では、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの生態系保存や美しい原風景を未来に繋げるため、外来種の駆除活動を推進しています。

もし、庭などで生育しているのを見つけたら、種の飛散に注意しながら抜き取ってください。また、地域や各種団体の行事などで、外来種駆除活動にぜひご協力ください。

その際に、「外来種って何？」「私たちの生活にどんな影響があるの？」「どうやって駆除するの？」などの疑問や相談があれば、左記までお気軽にお問い合わせください。

問ジオパークまちづくり課（市役所2階）☎88-8126

なぜ外来種を駆除するの？

外来種の多くは、あまりの繁殖力の強さに一度定着すると在来の植物を駆逐してしまい、あたりの景色を一変させてしまう恐れがあります。

外来種の処理方法

根から引き抜いたものをゴミ袋に入れ、密閉して2～3日、日当たりの良い場所で枯死させてから、燃えるゴミの日に集積場へ出してください。

外来種駆除のポイント

外来種を繁茂させないためには、「種子を地面に落とさない」「種子ができる前に駆除を行う」ことが大切です。